

# 2024～2025年度 小倉中央ロータリークラブ週報

第1352回 例会 9月30日(月)  
本日の卓話 「スポーツの力で、まちをもっと元気に！  
～SDGsとスポーツが描く、持続可能な北九州～」  
BORK bullet GM 宮谷 直樹 氏



例会日 月曜日 12:30～13:30  
例会場 リーガロイヤルホテル小倉  
事務所 小倉北区堺町1-2-16-3F  
TEL 093-531-4015  
FAX 093-531-1022

会長の時間 (9月9日 1351回 例会記録) 河野会長

出席報告 9月9日

本日はランニングと私のもう一つの趣味である山登りについてお話をしたいと思います。

まずは鹿児島県の南に位置する世界遺産の島、屋久島について。島には標高1936メートル、九州で一番高い山、宮之浦岳が鎮座しています。島の麓は亜熱帯、山頂は亜寒帯、南北に長い日本の自然を居ながらにして味わえる世界遺産の島です。麓では亜熱帯植物の巨大なシダやガジュマルの木が生い茂り、山頂付近は森林限界で樹木は生えていません。

「ひと月のうち35日雨が降る」と言われる宮之浦岳に登るのに、ぎりぎりの日程を組んでいては雨にたたられます。途中テント泊をしますので二日あったら問題ないのですが、五日の日程を組んで屋久島に上陸しました。早速、雨の洗礼を受け、初日は宮之浦岳まで登らなくても屋久杉を味わえる屋久杉ランドでハイキング。二日目は島の南端にある海岸露天風呂で観光客と裸の付き合い。もちろん混浴です。外人のアベックが入浴していましたが、人目を気にしないのか、我々を屋久島固有のサル、屋久ザルと思ったのか、すっぽんぽん。しっかり目の保養をさせて頂きました。三日目にしようやく雲の隙間からお日様が見えてきたので、いよいよ九州最高峰の宮之浦岳に登頂です。

途中、屋久シカや屋久ざる、そして樹齢何千年という屋久杉を横目に登ります。樹齢7000年とも言われる縄文杉や豊臣秀吉に献上するために切られたという樹齢3000年のウイルソン株も素晴らしかったのですが、一番はやはり宮之浦岳の絶景です。ご来光を拝むため、山頂直下にテントを張り、まだ暗いうちに山頂を目指します。しかし、周りは一瞬、霧に包まれ1メートル先も視界が効きません。これもまた屋久島かとあきらめて下山しかけたその瞬間、目の前の霧が風に流され宮之浦岳の山頂が鮮やかに目に映りました。昨日までの樹齢1000年を超える屋久杉に囲まれた鬱蒼とした森林と打って変わって、コケに覆われたような植物群の中に点々と置かれた岩の群れは、まるで箱庭を見ているような景色。苦勞して登った人にしか貰えない、神様が与えてくれたご褒美のような風景でした。その一瞬の景色もまた雲の中に隠れてしまいましたが、いまだに目に焼き付いています。

下りは宮崎駿の「もののけ姫」のモデルになったと言われる、樹木も岩も土も苔に覆われた、一面が緑の幻想的な世界、白谷(しらたに)雲水挾を「もののけ」の気配を感じながら麓まで下りてきました。ところが、同伴者一人がこのまま下界に降りるのが勿体ないと言い出し、予備日が余っていたので「もののけ」の森でもう一泊。翌朝、三日間の汗を流そうと雲水挾から流れてきた麓の川に素っ裸になってザブーン、キンキンに冷えた川の水は天にも昇る気分ですが、川底に溜まった苔が舞い上がり、川から出たみんなの体はここもあそこも苔だらけ、改めて近くの銭湯で苔を流しました。

最後のご褒美、黒潮にもまれたトビウオの刺身と三岳のオンザロックは絶品でした。

在籍会員数	44名
義務出席者	41名
ゲスト	1名
ビジター	0名
本日出席数	36名
本日出席率	87.80%
前々回修正出席率	93.02%

次回(10月7日)の卓話は、

「家庭集会報告」です。

## 9月のお誕生日

- 2日 細川 忠広会員
- 2日 田村 雅史会員
- 20日 溝尻 武則会員
- 29日 岩田 紀子会員

## 今月の主な予定

- 1日(日) IA 24時間TV募金
- 2日(月) 定例理事会
- 7日(土) R財団補助金セミナー
- 18日(水) 二水会
- 21.22日 門司RC創立90周年式典

四つのテスト ～ 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

## 幹事報告

## 北垣幹事

## ・ロータリー奉仕デーのご案内

日時 10月19日(土) 8:00~9:00

場所 巨過市場周辺

※集合は、商工貿易会館前です。

## ・家庭集会在行われていますが、終わったグループは、報告書を事務局まで提出ください。

## ・次回例会は、9月30日(月)です。祝日のため2週、お休みです。

## 卓話の時間

「リスキング・リカレント教育の重要性と地域」

北九州市立大学 大学院

マネジメント研究科長 松永裕己氏

リスキングやリカレント教育が盛んである。一言でいえば「学び直し」。この背景には社会の変化がある。2010年代から Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity の頭文字をとった「VUCA」といわれるようになった。変化の早さや予測困難性が増加し、未来は現在の単純な延長線上にはないという認識である。これに伴い、組織も人も変化に早く対応し、自律的に行動することが求められるようになった。

リスキングとは、今までとは異なる職務や分野で活躍するために新たな知識やスキルを身につけることをいう。

リカレント教育とは、就職したあとも必要に応じて繰り返し学ぶことを意味する。一般的には前者は企業の視点から語られ、後者は個人のキャリアや生き方と関連付けて説明されることが多い。

社会人の学びに関連してもうひとつ注目を集めているのがリベラルアーツである。教養あるいは教養教育と訳される。専門的なスキルや実務的なノウハウよりも、文化、芸術、哲学など幅広い領域にまたがる知識やそれに裏付けられた視野の広さや深い思考力こそが変化の激しい時代では重要だというのがリベラルアーツ重視の考え方である。

同じ学び直しでもリスキングとリベラルアーツの間には大きな隔りがある。言うまでもなく、どちらが重要かという問題ではない。自分なりの哲学や洞察力がなければリスキングは役に立たないし、実務から離れた空論のみではやがて飽きられるだろう。問題は、それらをどこで結びつけるかである。それは異なる価値観や考え方がぶつかる場であり、多様な経験ができる場である。

ここで、家庭や職場ではないサードプレイスこそが重要な役割を果たす。家庭も会社も以心伝心の部分が多い。だが地域は違う。考え方がバラバラな人々が集まっており、指揮命令系統もない。地域の中に自分の居場所をつくるのが学び直しにとっては重要な意味を持つ。

ロータリークラブもそのサードプレイスのひとつとして重要な役割を果たすことが期待される。



## ニコニコ献金報告

累計 139,000円

河野・北垣・鍋島会員—松永先生、本日はお忙しい中、ようこそお越しくいただきました。みんなの心に訴える卓話を楽しみにしています。

河野ランナー—道下さん、銅メダルとれました。皆さん、応援ありがとうございました!!

河野・北垣—梶原チーム、鍋島チーム、家庭集会ありがとうございました。とても楽しい時間が過ごせました。

梶原会員—先週の家庭集会にご参加された方々、ありがとうございました。翌日、お腹は大丈夫でしたか？ またみんなで楽しく飲みましょう。

鍋島会員—先週は、家庭集会のご参加ありがとうございました。ダイエットメニューでした。ごめんなさい。

浅海会員—先日の梶原会員のお宅での家庭集会、皆様、本当にお世話になりました。また、会長、幹事もおみえになっていただきありがとうございます。

田村会員—吉田さん、先日の法人会の後、手持ちがなく、出していただきまして有難うございました。その分、ニコニコします。

合計 14,000円